

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆2016年8月25日(木), 日本語教育学会会議室において企画運営委員による2016年度第4回大会委員会を開催した。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2016年度秋季大会(ひめぎんホール)準備の進捗状況について

特別プログラムのチラシ, 大会ポスターの印刷状況および現地での広報の進捗状況について確認した。

2. 2017年度春季大会の特別プログラムについて

2017年5月20日(土)10~12時に特別プログラム「人をつなぎ社会をつくる—日本語教育の現代的可能性を拓く 人工知能との対話」というタイトルでパネルディスカッションを行うことを検討した。

3. 新生大会(2017年度)に向けた各種の検討事項について

以下の点について意見交換を行った。引き続き次回委員会で検討を行う。

- ・発表時の各種ルールについて(写真撮影の禁止/自著等の広報・宣伝活動など)
- ・大会アンケートの改定について
- ・大会案内(当日配布資料のパンフレット)の刷新について

4. 新たな発表査読の流れについて

2017年度発表分の応募審査から審査・運営協力員制度が導入されるため、査読体制・方法の変更について確認した(不採択コメント発行の廃止等)。

◆2016年10月8日(土), 9日(日), 2016年度日本語教育学会秋季大会をひめぎんホールで開催した。参加者は, 招待者・関係者を含めて441名であった。

1. 1日目の午前には, 一般公開の特別プログラムとしてパネルディスカッション「人をつくり文化をつなぐ 俳句の魅力」が行われ, 招待者・関係者を含めて139名の参加者があった。

2. 午後は, 開会式に引き続き, 二つの会場で4件のパネルセッションが行われた。各パネルとも熱心な発表, 討議が行われた。

3. 懇親会は, 施設内のレストランオレンジで行われ, 招待者・関係者を含めて115名の参加者があった。

4. 2日目には, 三つの会場で24件の口頭発表, 二つの会場で29件のポスター発表, 一つの会場で8件のデモンストラーションが, それぞれ行われた。どの会場も盛況で

あった。

◆2016年10月9日(日), ひめぎんホール会議室において全委員による2016年度第5回大会委員会を開催した。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2017年度春季大会の運営について

早稲田大学の川上郁雄氏より, ご挨拶に続き教室手配や実行委員会体制についての説明があった。

2. 査読司会委員の退任について

審査・運営協力員制度の導入に伴い, 査読司会委員は今大会をもって業務終了となる旨, 確認し, 今後のご協力をお願いした。

次回委員会予定: 2017年2月11日(土)

(谷部弘子)

● 学会誌委員会

◆2016年11月12日(土), 日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。165号の刊行準備, 平成28年度科学研究費補助金の執行状況, コラム「海外の学会から」のweb化および所掌変更などについての報告の後, 以下のとおり審議が行われた。

1. 166号投稿論文(投稿総数36本(研究論文23, 調査報告3, 実践報告2, 研究ノート8)の審査。

2. 次期委員候補者の選出。

3. 『日本語教育』投稿規程の改定案の承認。

4. 168号特集(2017年12月号)の構想の確認。

5. 二重投稿についての検討。

次回委員会予定: 2017年3月11日(土)

(西郡仁朗)

● 研究集会委員会

◆研究集会実施報告

1. 2015年度第5回研究集会(関東地区)

「実践研究フォーラム」

開催日: 2016年8月6日(土)・7日(日)

会場: 東京外国語大学

参加人数: 243名(会員158名, 一般85名)

内容: みんなの実践広場26件, 対話型・体験型・企画セッション8件, 実践研究フォーラム語りの会, パネルセッション「実践研究の可能性—ことばの教育の未来を拓く—」

酷暑の中ではあったが, 大学や日本語学校関係者, 地域の実践者, 大学院生, そして初の高校生(1名)と多くの参加者を得て, 2日間に渡り活発な議論が交わされた。

1日目は, 3件の対話型セッションと1件の委員企画セッション, 「みんなの実践広場」では26件の発表があった。また, セッション後の「語りの会」では, 幾つかの

テーマに分かれて実践について自由に語りあった。2日目は、午前中に対話セッションと体験セッションが2件ずつ行われた。午後のパネルセッションでは、伊東祐郎氏、加藤早苗氏、西口光一氏、細川英雄氏をパネリストに招き、実践研究の課題、可能性について会場全体で話し合った。

今年度で実践研究フォーラムは最終回ということもあり、委員経験者や発題経験者の参加も多かったが、初参加者も交えて各所で活発に意見交換が行われていた。参加者からは、フォーラムの終了を惜しむ声が多く寄せられた。日本語教育関係者が機関や立場を越えて自由に議論できる場合は、今後ますます必要であろう。来年度以降の支部活動において、そのような場を会員自らが企画実行しやすいシステム作りが求められていると思う。

(佐藤正則)

2. 2016年度第6回研究集会（四国地区）

開催日：2016年11月5日（土）

会場：高知大学

参加人数：64名（会員17名、一般47名）

内容：研究発表9件（口頭7件、ポスター2件）、講演「台湾の日本語教育事情から学ぶ—国際医療翻訳・通訳のための人材育成を例にして—」講師：頼振南（台湾・天主教輔仁大学）

講演は台湾から頼振南氏をお迎えし、輔仁大学外国語学部における人材育成について話を伺った。専門知識と外国語教育を結合し国際医療翻訳・通訳士を育成するという先進的な取り組み、また様々な国際機関との連携は、日本語教育関係者だけでなく他の外国語教育関係者にとっても興味深い内容であったと思われる。

研究発表は文法に関するもの、「やさしい日本語」、日本語学習者の誤用、教師養成、作文指導のほか、実践報告など多岐に渡った。

閉会式において、支部活動委員の高橋志野氏より、今後の支部活動の在り方について説明が行われた。

(佐野由紀子)

◆2016年度研究集会予定

・第9回研究集会（関西地区）

2017年3月11日（土）、大阪YMCA国際専門学校

※各地区研究集会のプログラム、発表要旨、発表募集情報等は、日本語教育学会ウェブサイトの研究集会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/jissensha/shukai>

◆会議記録

1. 全体委員会

2016年度第2回研究集会全体委員会（2016年10月9日）

2. 関東地区委員会（実践研究フォーラム実行委員会）

2016年度第4回関東地区委員会（2016年10月22日）

● 教師研修委員会

◆2016年度研修実施報告

1. 夏季集中研修「ワークショップデザイン入門—自立した企画者になるために—」

講師：森玲奈氏（帝京大学）

開催日：2016年8月25日（木）・26日（金）

会場：東京大学駒場キャンパス

参加者：21名

2. 「学びの「深さ」を再考する—ディープ・アクティブラーニングを実現するために—」

講師：松下佳代氏（京都大学）

開催日：2016年9月3日（土）

会場：東京大学駒場キャンパス

参加者：35名

3. 「反転授業—効果について考えよう—」

講師：森朋子氏（関西大学）

開催日：2016年10月22日（土）

会場：早稲田大学早稲田キャンパス

参加者：35名

4. 「読解の科学—第二言語読解の基礎的理解と教育への応用をめざして—」

講師：山下淳子氏（名古屋大学）

開催日：2016年11月12日（土）

会場：政策研究大学院大学

参加者：74名

5. 「日本語教育でクリティカルシンキングを育てる—21世紀型能力育成を目指したクラスの実現にむけて—」

講師：道田泰司氏（琉球大学）

開催日：2016年12月4日（日）

会場：東京外国語大学

参加者：38名

なお、前日の12月3日（土）には同講師・同会場にて会員以外の広く市民等も対象とした参加費無料の公開講座「考える力を育てる授業づくり—多様な教育現場での問題共有を目指して—」を開催した。参加者94名。

◆2016年度研修予定

1. 「教育実践の振り返りを記述する方法—ティーチング・ポートフォリオ作成体験ワークショップ—」

講師：栗田佳代子氏・吉田壘氏（東京大学）

開催日：2017年1月22日（日）

会場：東京大学駒場キャンパス

定員：80名

2. 「質的研究ははじめの一步（仮題）」

講師：八木真奈美氏（駿河台大学）

開催日：2017年2月4日（土）

会場：国際交流基金日本語国際センター

定員：40名

※上記はいずれも予定のため、研修タイトルやテーマ、講師、日時、会場、定員等が変更する場合もございます。各研修の募集詳細は決定次第、日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページに掲載します。
<http://www.nkg.or.jp/jissensha/kyoshikenshu>

◆会議記録

1. 2016年度第1回教師研修委員会（2016年11月27日）
 - (1) 2016年度研修実施報告
 - (2) 2016年度研修計画
 - (3) その他
 - (4) 次回会議予定

◆次回会議日程

1. 2016年度第3回教師研修委員会（2017年3月5日）

(宇佐美洋)

◇ 事務局からのお知らせ

●年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店（普）130-880757
- 現金書留
- クレジットカード支払（海外在住者のみ受け付けます。事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)にお問い合わせください。

●年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全国の金融機関（銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等）でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

<年度会費>

- 普通会员 10,000円（年度額）
- 賛助会員 一口50,000円（年度額）

●住所等の変更について

所定の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552 / E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

●学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp